

130 × 飛翔の東工大

東京工業大学長 伊賀健一



東工大は我が国最大の理工系国立大学です。創立130周年記念事業を中心に「大学力」を高め、新しい価値を創り出す大学として、学术界、産業界、世界に貢献していきます。

東京工業大学(東工大:Tokyo Institute of Technology)は、1881年設置の東京職工学校、蔵前に位置した東京高等工業学校を経て1929年に大学となって以来129年の歴史をもち、2011年には創立130年を迎えます。常に産業のフロントを切り拓き、頼りになる東工大人材を育ててきました。「流石は東工大」というイメージは、密度の高い専門教育とユニークな卓越研究に基づいた内外からの評価です。

東工大には、理学、工学、生命理工学の3学部、理工学(理学系、工学系)、生命理工学、総合理工学、情報理工学、社会理工学、イノベーションマネジメントの6大学院研究科があります。また、資源化学、精密工学、応用セラミックス、原子炉工学、像情報工学の研究所、そして約30の研究教育施設・センターにより、社会、産業界の要請に応えてきました。これからも我が国産業の根幹を支える大学として、激変する産業、社会構造に対応すべく、先端科学技術、融合領域、新規領域などに意欲的に取り組みます。多様性のあるそれぞれの分野で、本学が誇る多彩な教授・准教授・助教の教職員、研究員、技術職員が国際的に活躍し、先導的な役割を果たします。横断的教育機構として、情報系教育研究機構、環境エネルギー機構、ライフ・エンジニアリング機構を作りました。

文部科学省の21世紀COE(Center of Excellence)は、本学が世界に誇るもっとも強い12の研究分野で世界研究教育拠点を形成しました。後継事業のグローバルCOEでは、2007年度に5チーム、2008年度に3チーム、2009年度に1チームが採択され、合計9チームが活動しています。2005年には、文部科学省のプログラムで“統合研究院”が設立されました。異なる研究分野の研究者を結集して、想定した重要課題解決を図るソリューション研究を中心に2010年度より研究所群が引き継ぎました。また、教育分野においても文部科学省の2007年度以来大学院教育改革プログラムに7チームが採択され、イノベーション人材、および、男女共同参画プログラムも2008年度にスタートしました。

本学の創造性豊かな教育に伴い、ノーベル賞受賞者の白川英樹博士をはじめ、数多くの優れた人材を世に送り出してきました。確かな基礎力を習得した「創造型人間」の育成を目指しています。“ものづくり

教育研究支援センター”と密接に連携し、実践の場で“ものづくり”に自主的・主体的に取り組み、確かな基礎学力と深い専門性の修得へと訓練するという独自のプログラムもあります。

特筆すべきものとして、四大学連合、2010年11月に進化したスーパーコンピュータ“TSUBAME”の幅広い稼働、世界に開かれた若手研究者のGlobal Edge Instituteの設立、国際的リーダーシップを育む東工大・清華大合同大学院の開設、さまざまな国際連携、組織的・戦略的な産学連携など、東工大は世界に窓を開いています。2010年の英国QS社世界大学ランキング60位、同工学分野23位、鳥人間コンテストや合唱コンクールで連続13年の金賞など、国内外での評価を得ています。

創立130周年記念事業として、「東工大130」を立ち上げ、教育、研究、貢献を3本柱として重点的に“東工大らしさ”を出そうと努力しています。その一環として大岡山キャンパスに新しい図書館を建設中で、すずかけ台キャンパスには産学共同体棟ともいべき建物を建設中です。また、附属科学技術高校を含む田町キャンパスの有効利用も進めます。これには本学同窓会としての「蔵前工業会」が強い味方で、大学の“同窓力”を高め、社会との交流を目指します。そのための「場」として、大岡山に東工大蔵前会館が2009年5月26日の創立記念日に竣工し、広く皆様にもお使いいただいています。

しかし、大きく変化する世界に対応できる大学として進化する必要があります。「東工大ビジョン2009」と名付けた計画をもとにさらなる飛翔を目指します。



東工大本館時計塔(水晶時計発祥の地)



シンボルマーク

左のシンボルマークは、1948年に当時東京美術学校教授であった堀進二氏の図案によるもので、工業の「工」の字につばめの「大」の字を図案化して配しています。「工」の字は窓を象っており、学窓の意味をも象徴しています。当初は、職員バッジの図案として採用され、以後、シンボルマークとして広く親しまれて使用されてきました。1981年、本学の創立百年に当たり、正式に本学のシンボルマークとして定め、今日に至っています。正式に定めるに当たっては、手島精一先生のご令孫で当時東京藝術大学助教授であられた手島有男氏に図案作成の協力をいただきました。

東工大

略称

日本語略称は「東工大」、英文表記上の略称は「Tokyo Tech」、「TIT」、「Tokodai」、「Titech」が使われています。



スクールカラー

2004年春、それまで明文化されていなかった「スクールカラー」を定めました。この色は「ロイヤルブルー」とも呼ばれ、躍進と進化を象徴する色です。

CONTENTS

組 織 2

財 務 3

学 部 5

大学院 6

研究所・施設・センター等 9

附属図書館・附属高等学校 5

職員・学生・研究員数等 16

入学・卒業状況等 1

研究プログラム 23

産学連携 6

教育プログラム 29

海外連携 2

キャンパスマップ 10

歴 史 4

役員等紹介 9